



受け継がれる伝統

東城まちなみぶらり散歩ギャラリー・11/1-5 お通り・11/4

11月1日から11月5日までの5日間、街道東城路（東城町市街地）で「東城町まちなみぶらり散歩ギャラリー」が開催されました。街道沿い約600メートルに、各家の展示や手作り品などが並び、着物姿の観光客などが東城のまちなみに華を添えてくれました。

また、沿道では東城高校生徒によるボランティアガイド「東城応援隊」が、来訪者へ見どころを案内しました。

11月4日には、東城小学校をメイン会場に「お通り」が開催されました。「お通り」は江戸時代から続く伝統行事で、東城五品嶽城主の長尾隼人が関ヶ原の戦いの勝利を祝って、神社の祭り行列に武者行列を加えたことが始まりとされています。「お通り」では、サザンカで飾りつけた矢よけの武具「母衣」をはじめ、大名、武者、華童子など総勢約150人からなる行列が市街地を練り歩き、沿道は市内外から訪れた1万7千人ものカメラ愛好家や見物客でにぎわいました。

また、本年は長尾隼人没後400年という節目の年であり、10月29日に三楽荘で、記念行事として長尾隼人に関する基調講演も開催されました。



▲東城応援隊が見どころを案内



▲大名、武者、華童子などが市街地を練り歩いた

エンジョイ！ニュースポーツ

総領スポーツフェスティバル・10/14

No.6

田総の里スポーツ公園で、総領節分草スポーツクラブ主催の総領スポーツフェスティバルが開催され、園児から大人まで50人が参加しました。この催しは、誰でも気軽にすぐに楽しめるニュースポーツを通じて、日頃の運動不足の解消と健康づくりはもとより、地域住民同士の交流を深めることを目的に開催され、本年度で3回目となります。

今回は、ペタンク・フライングディスク・グラウンドゴルフの3種目を1チーム5人に分かれて対戦しました。当日は、天候にも恵まれ、熱戦が繰り広げられ、参加者は爽やかな汗を流しながらニュースポーツを楽しみました。参加者は「楽しかった。また参加したい」と話していました。



▲的を目標けてディスクを投げる様子（フライングディスク）

健康について考える

市民公開講座・10/27

No.5

庄原グランドホテルで、「庄原市の地域医療を考える会」主催の市民公開講座が開催されました。この講座は、私たちが住んでいる地域ではどのような医療が行われ、いざ自分や家族が病気になればどのような治療を受けることができるのかを知り、安心して受診できる身近な医療を守ることを目的に、毎年開催されています。

今回は、庄原赤十字病院腎臓内科副部長の若本晃希医師が、痛みや体の不調などの自覚症状が少なく、病気が発見されるまで放置されがちな「腎臓」について、機能が低下すると人工透析が必要となることなどを分かりやすく説明し、「健康診断を定期的に受診し、予防することが大切」と来場者にアドバイスしていました。



▲100人が来場し熱心に講演に聞き入った

地域力を活用しおもてなし

外国人モニターツアー・10/29-30

No.1

庄原商工会議所は「2018年度地域力活用新事業∞全国展開プロジェクト」の一環として、（一社）庄原市観光協会などの協力のもと、10月下旬から11月上旬にかけて、3つのモニターツアーを実施しました。

10月29日・30日に実施したツアーでは、オランダや韓国から計5人が参加し、川北町の古民家宿「暮らし宿 お古」で収穫した野菜を使った調理体験や五右衛門風呂、薪割りなどを体験しました。

また、上谷町を拠点に演奏活動を行っている「不老仙太鼓」のメンバーによる和太鼓体験も行われました。不老仙太鼓代表の藤原則幸さんは、「参加した方が楽しんでいたので、私たちも楽しかった」と手ごたえを感じていました。その他、ツアーでは、帝釈峡散策や刀匠の久保善博さんによるペーパーナイフづくり体験などが実施されました。オランダからの参加者は「貴重な経験ができた」と喜んでいました。

庄原商工会議所職員は、「今回のモニターツアーで実施したアンケートなどを基に内容を再考し、次の展開に向けて検討していきたい」と話していました。



▲暮らし宿 お古で田舎暮らしを楽しんだ



▲和太鼓体験を楽しむ外国人モニターツアー客

全国で庄原産米が高い評価

受賞を市長に報告・11/6

No.3

「炊飯・米飯商品国際コンテスト」で西城町美味しい米づくり研究会の会長山本広美さん出品の米が、全国から出品された51点のうち4点だけが選ばれた「特Aオーバーランク」に認定され、「千粒重上位賞」を受賞しました。

このコンテストは、米飯商品としての適性や炊飯機器との相性などを評価するコンテストで、米の品質検査などを行うアイホー炊飯総合研究所（愛知県豊川市）が初めて開催したコンテストです。山本さんは「これまでの努力が認められた。今後も高品質なお米を作り続けたい」と喜んでいました。

庄原産米は全国の米コンテストで高い評価を受け続けており、庄原産米のさらなるブランド力強化につながる事が期待されています。



▲木山市長に受賞報告した（右から木山市長、山本会長、荒木副会長、大場事務局長）

憩いのスペースから情報発信

宮田武義氏作品展・10/1～

No.2

ウイル西城1階にある「まちの駅『ひばごんの郷』」で、庄原市名誉市民の宮田武義氏の作品展示が行われています。

掛け軸などの作品や略年譜、宮田氏と親交のあった著名人を紹介したパネルなどを見ることができます。その他、イートインやオープンスペースがあり、大型ディスプレイによる情報発信、観光パンフレットの配布、比婆いざなみ街道のPRなども行われています。

西城町産業振興開発株式会社の堀井康夫代表取締役は「寄贈された掛け軸、宮田氏愛用の竹筆、すずりもぜひご覧ください。掛け軸には寺川大雅さんによる説明を添えてあり、定期的に入れ替えを行う予定です」と話していました。



▲会場には宮田武義氏の作品が並び



「帝釈峡小唄」を広めたい

帝釈峡小唄フェスティバル・10/28

No.12

神龍湖畔トレイルセンターしんりゅう湖前で、「帝釈峡小唄」フェスティバルが開催されました。この行事は、白鳥省吾作「帝釈峡小唄」の再生装置が、白鳥省吾歌碑の横に新たに設置されたことによる記念行事です。

ステージでは、鬼神太鼓、山の子会による「帝釈峡小唄」の群読、帝釈峡小唄を踊る会の舞踊などが行われました。

主催する帝釈峡ルネサンス会議代表の和田匡弘さんは、昭和13年に発表された「帝釈峡小唄」、昭和33年に発売されたレコード曲「帝釈峡小唄」に魅せられ、これをもとに帝釈峡の魅力を発信しようと精力的に活動しています。



▲音声装置のボタンを押すと鳥倉千代子さんの歌が流れます

地域の新たな特産品づくり

比和自治振興区 酒米甘酒作り・10/25

No.14

比和自治振興区による、酒米甘酒作りが行われました。これは、3月に町内で行われたシンポジウム「未来のタネをみつけよう」での、小・中学生による“町内で育てた酒米やソバを使って新たな地域の特産品をつくるのはどうか”という提案を受けて企画されました。

当日は、地域の子どもたちやその保護者などが参加。炊けた酒米の試食の後、甘酒作りに挑戦しました。温度調節がなかなかうまくいかず四苦八苦していましたが、甘酒作りに成功した参加者は、うれしそうな表情を浮かべていました。

この甘酒は、10月28日に行われた「いざなみック2018～第2回比婆いざなみ街道マラニック～」のエイドステーション（休憩所）で提供されました。



▲酒米を炊くところから甘酒作りを行った

温水プールで秋の水泳イベント

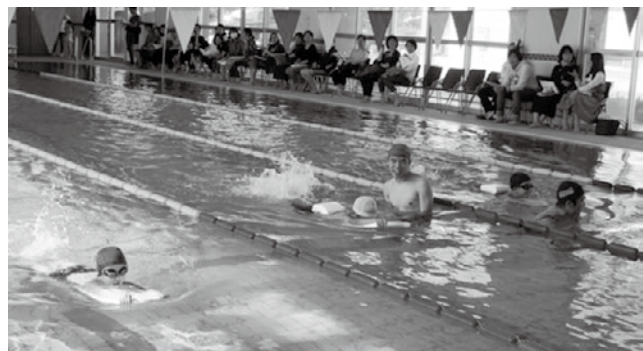
水夢フェスティバル・10/26

No.11

庄原市西城温水プール「水夢」で、水夢フェスティバルが開催されました。第15回目となる今回は、幼児から大人まで総勢116人の参加がありました。

また、水泳選手の中野由佳選手も出場し、見事な泳ぎを披露しました。中野選手は交通事故に遭い脊髄を損傷し、3年前から車椅子生活を送っています。現在はネイリストとして仕事を行う一方で、パラリンピック出場を目指して、県内外の大会に出場しています。

参加者は平泳ぎやバタフライなどのさまざまな泳法でタイムを競い合ったほか、大会終了後にはお楽しみ抽選会も行われ、イベントを楽しんでいました。



▲幼児もビート版を使って競争

事故防止と公共交通の維持

安全運転サポート車の体験とバスの乗り方教室・10/19

No.13

里山の駅 庄原 ふらり（国営備北丘陵公園北入口エリア）で、中国運輸局や広島県警、備北交通㈱、庄原市などで構成する安全運転サポート車＆公共交通体験会実行委員会主催の「安全運転サポート車体験＆バスの乗り方教室」が開催され、小学生27人を含む72人が参加しました。この教室は、安全運転サポート車の普及促進と公共交通の利用促進による、交通事故の防止や公共交通の維持・活発化のために行われました。

当日は、安全運転サポートカーに乗車し自動ブレーキの実体験や、バスの乗降の際のPASPY（ICカード）の使い方などの体験を行いました。また、「安全運転×公共交通利用＝健康」と題した呉工業高等専門学校神田佑亮教授の講義もありました。



▲PASPY（ICカード）を使った実車体験

迫力の離着陸

防災ヘリコプター救急連携訓練・11/12

No.8

「防災ヘリコプター救急連携訓練」が高野保健福祉センター南側のヘリポートで実施されました。この訓練は庄原消防署高野出張所の主催で、消防業務に対する市民の正しい理解と認識を深め、防災意識の高揚を図ることを目的としています。

傷病者を救急車、防災ヘリコプターで搬送することを想定した訓練が行われ、間近で訓練を見た市民は緊迫した雰囲気と離着陸の迫力に圧倒されていました。

庄原消防署高野出張所菅原光明所長は「今後も訓練を重ねることにより関係機関の連携強化と市民の防災意識が高まることを期待します」と話していました。



▲傷病者搬送の様子（訓練）

健康について考える一日に

カラダ・ココロ すこやかフェスタ・11/18

No.10

庄原市民会館で、「カラダ・ココロすこやかフェスタ」と世界糖尿病デー「ブルーライトアップイベント2018」が同時開催されました。

当日は、健康・体力・認知症チェックのコーナー、糖尿病・高血圧・食育に関するパネル展示のほか、食育ポスター・未来の病院絵画コンクールの表彰、庄原保育所園児による合唱、シルバーリハビリ体操などが行われました。また、広島大学医学部付属病院消化器・代謝内科診療講師の河岡友和医師による糖尿病に関する講演も行われ、多くの来場者でにぎわいました。

また、糖尿病予防の啓発のため、11月10日から18日まで庄原赤十字病院と市役所本庁舎でブルーライトアップを行いました。



▲にぎわった健康・体力・認知症チェックのコーナー

大きな声で、火の用心!!

幼年消防クラブ 防火パレード・11/6

No.7

秋の全国火災予防運動の一環で、みどり園保育所と聖慈保育所の園児が、法被を着て口和町永田地区で防火パレードを行いました。園児は、庄原市消防団口和方面隊の団員や保護者および備北消防マスコット「トンビ君」と一緒に拍子木を打ちながら「戸締り用心、火の用心」と大きな声で訴え行進しました。沿道の地域の方からは、温かい声援が送られていました。

このパレードは、これから暖房器具を使用する機会が増え、火災が発生しやすい時期を迎えることから、園児に火災の恐ろしさを認識してもらうとともに、防火パレードを通じて地域住民の防火意識の高揚を図ることを目的とした行事です。



▲拍子木を打ちながら火の用心を訴えた

地域の特色を生かして

小奴可小学校でしいたけ原木づくりを体験・10/9

No.9

小奴可小学校の児童が、学校の裏山で東城町森林組合の協力のもと、しいたけの原木づくりを体験しました。

当日は、同小学校の全児童が参加し、森林の手入れの大切さを学びながら、原木の伐採作業の見学や原木をのこぎりで切る作業などを行いました。

原木の伐採作業の見学では、目の前で木が倒れる迫力に、児童たちからは歓声が起き、自然の雄大さを肌で感じていました。

この体験は、同小学校が昨年度から取り組んでいる「小奴可ネバーランド」計画およびひろしまの森づくり県民税を活用した「庄原市森づくり事業」の一環として行われたもので、「森林・林業体験」に学校全体で取り組むことは非常に珍しく、とても貴重な取り組みといえます。



▲児童が作ったしいたけの原木